

蒲 萄 ス キ ー 場 の 概 要

1. 立地条件及び交通

新潟県の北東部に位置し、日本海、鳥海山、月山、飯豊、朝日連峰の秀峰を望みながら東斜面、全長 2 km のダイナミックな滑りを楽しむことができます。

交通については、国道 7 号沿線にあり、新潟市街からは日本海東北自動車道を利用し 70 分（朝日まほろば I C より 20 分）、山形県鶴岡市街からも 100 分、また、県内で最北に位置するスキー場のため、降雪も多く雪質は良好で、恵まれた立地条件にあります。

2. 施設の概要

昭和 62 年ゲレンデを一部造成し、昭和 63 年第 1 ペアリフト（703m）、平成 2 年第 2 ペアリフト（817m）が架設され、2 基のリフトで毎時 2,400 人の輸送力を有しています。

ゲレンデ面積 17 ㍍、標高 150 ㍍～650 ㍍、標高差 500 ㍍、最大 2 km の変化に富んだ 4 つのコースを設定し、主に中・上級者向けのゲレンデ構成となっています。

山麓には、スキーセンターラビットがあり、事務所、レンタル室、リフト券売場、更衣室、救急室、ホール、トイレ、売店、従業員休憩室、二階には食堂（120 席）を備え、また、ゲレンデ内山腹にもくらししたロッジがあり、パトロール室、トイレ、食堂（60 席）を備えています。駐車場は、2 箇所収容台数 450 台となっています。

3. 索道の運営と保守管理

単線固定循環式特殊索道 2 基の運営と保守管理は市が直営で行っており、臨時職員を冬期間雇用し、安全運行に努めています。

索道技術管理者は、安全運行のための指示、伝達、施設の状況を把握し、索道管理員が行う日常点検項目以外についても整備係と巡回点検をし、保守管理を行っています。

なお、平成 21 年度に第 1 ペアリフト、平成 22 年度に第 2 ペアリフトの支えい索の交換（張替）工事を実施しています。

4. 事故防止

「安全の確保は輸送の生命である」、「規程の遵守は安全の基礎である」、「執務の厳正は安全の要件である」を基に、従事職員の安全衛生に対する意識向上の育成、熟知、相互連絡の緊密を図りながら事故防止を行っています。

5. スキー場内安全対策

- ・スキー場内の各部所に無線機を配置し、緊急時の対応を行っています。
- ・S A J 公認パトロールを中心とする場内巡視や場内放送を活用したリフト使用の注意事項の呼びかけを徹底し、未然の事故防止に努めています。

蒲萄スキー場の施設明細

① 索道関係

	方式	運転	支えい	支柱	原動機出力	緊張方式	制動装置
第1リフト	単線固定循環式 特殊索道	2.0 m/s	32 mm	13 基	三相交流分巻整流子電動機 出力110KW 形式SD5612V-D1MF-M01	油圧緊張	スラスタ 油圧式
第2リフト	同上	2.0 m/s	32 mm	16 基	直流電動機 出力150KW 形式SS-CF	油圧緊張	ディスク ブレーキ

② スキーセンターラビット

	事務	インル室	救急	休憩	券売	ホール	更衣	トイレ	食堂	厨
面積(m ²)	32.6	103.68	8.08	28.89	2.25	78.48 売店	15.66	26.33	143.75 100席	84.31

※スキーセンターラビット内トイレ

- ・一般客用=男(大2、小3)、女(2)
- ・職員、従業員用=1, 2F 食堂従業員用=1

③ くらしたロッジ

	パトロール室	食堂	厨房	ホール	トイレ
面積(m ²)	16.56 (9.94)	86.12 (62席)	26.5	27.43	19.87

※くらした食堂内トイレ 男=(大1、小3)、女=(3)

④ レンタル用品

- ・スキー 100台
- ・靴 100足
- ・ストック 100組
- ・スノーボード板 10台
- ・スノーボード靴 10組

⑤ 施設設備関係

- ゲレンデ 17.0㍓ (総延長4km ・最大斜度30度 ・平均斜度17度)
- ゲレンデ名称 ダイナミック ・クラシタ山 ・パノラマ ・グレープロード
- 駐車場 1.2㍓ (約450台)
- ナイター 第1リフト(ダイナミックゲレンデ) ・支柱本数16基 ・球数48個
- 圧雪車 2台 [大原DF-270(平成9年度) ・大原SRH-370DM(平成11年度)]
- スノーモービル 1台(ヤマハ)(平成3年度)

⑥ 業務開始年度

- ◇第1ペアリフト 昭和63年度
- ◇第2ペアリフト 平成2年度
- ◇ナイター 平成8年度
- ◇スキーセンターラビット 平成3年度
- ◇くらしたロッジ 平成7年度

⑦ 営業時間(平成23年度まで)

平日	9:00~16:00	※ナイター(毎週金曜日) 17:00~21:00
土、日、祝日	8:30~16:00	

蒲萄スキー場の営業再開にかかる経費

1 リフト総点検の実施

リフトメーカー、電気事業者による総点検を実施し、修理改善しなければならない箇所が判明したので、緊急度・優先度を考慮し、年次計画で修繕し安全を確保する。

	リフト修繕	ゲレンデ・ロッジ等修繕	合計
修繕年度	H25~H27	H25~H28	H25~H28
営業再開にかかる経費(千円)	32,734	13,870	46,604

2 蒲萄スキー場を再開する場合の営業経費(平成25年度~平成29年度)

H25~H29までの5年間では、計223,729千円の繰入出金が必要となる。
圧雪車2台を購入予定。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	小計
収入(千円)	10,000	11,000	12,000	13,000	14,000	60,000
支出(千円)	85,485	78,390	44,726	41,144	33,984	283,729
繰入金(千円)	75,485	67,390	32,726	28,144	19,984	223,729

※繰入金とは、特別会計での収支不足を補てんするために、一般会計から充当される資金。

3 蒲萄スキー場の利用者数見込み

① 一般客数(目標値)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
利用者数(人)	7,132	休止	7,100	8,100	8,900	9,700	10,500	

② スキー授業参加児童生徒数(学校教育課資料から算出)

平成24年度は蒲萄スキー場の営業を休止していたため、わかぶな高原スキー場でのスキー授業となった。平成25年度は、各学校の年間行事予定表、児童生徒数を参照して算出した。平成26年度以降は、スキー授業参加校を増加させる予定。

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考
学校授業利用者(人)	1,506	594	1,200	1,500	1,600	1,700	1,800	

4 雇用の状況

- 平成 23 年度は一部業務委託（リフト係、圧雪係、パトロール係）
- 平成 24 年度は休止中の施設維持管理業務

年 度	H19	H20	H21	H22	H23
営業日数（日）	54	58	79	73	74
人 数（人）	25	29	27	23	—
賃 金（円）	7,522,600	9,174,752	10,217,328	9,617,564	10,803,410

年 度	H24（休止）	H25	備 考
営業日数（日）	—	72	
人 数（人）	2	19	賃金支払者数
賃 金（円）	712,660	10,638,828	